

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (安芸高田市立美土里中学校)

- ① 教科等 外国語科 ② 学年 第3学年
- ③ 単元名 Unit6 “20th Century Greats”
- ④ 本時の目標 話し手の方を向いてうなずいたり、メモを取ったりして話の内容に関心を持って聞こうとする。
姿勢、目線、声の大きさや表情を意識し、絵や実物を提示するなど工夫して話すことができる。
- ⑤ 学習の流れ (12時間目/全12時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 あいさつ, Warm-up ○接触節と関係代名詞を用いて自分のことについて話す。	・アイコンタクトや会話継続のストラテジーを意識させる。 ・ペアを変え、何度か繰り返し自分自身のことが言える場を多く設定する。	
2 目標の確認	「好きな人, 尊敬する人, 会いたい人」についてスピーチをしよう。	
3 グループ内でお互いの発表を聞いて良かったところを伝え合う。		
○グループ内でスピーチ発表をする。	・評価シートに書いてある項目の具体例を示す。 ・練習してきたことを十分に発揮させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢、目線、声の大きさや表情を意識し、絵や実物を提示するなど工夫して話すことができる。〔外国語表現の能力〕(行動観察) ・話し手の方を向いてうなずいたり、メモを取ったりして話の内容に関心をもって聞こうとしている。〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕(行動観察, 評価シート)
○発表後のまとめをする。 ・スピーチを聞き、良い所を理由を付けて伝え合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">I think the speech _____ made is the best, because _____</div>	・評価シートを見て、特に内容が伝わりやすいように工夫している人を選ぶよう指示する。 ・理由を述べる表現を例示し、発表に自信がもてるようにアドバイスする。 ・グループ内でアドバイスし、代表者が自信をもって発表できるように指示する。 ・グループ内で呼び出し係やコメントを言う係など役割分担をして、発表につながりをもたせるよう指示する。	
○全体発表のリハーサルをする。		
4 クラス全体の前でスピーチをする。		
○グループの代表者が全員の前で発表する。 ○スピーチを聞いて評価シートに記入する。	・聞き手は共感的な態度で聞かせ、発表を聞いた後、評価シートに記入するように指示する。	
5 本時の振り返り 6 家庭学習の確認 7 あいさつ		

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 声の大きさやアイコンタクト、発音・イントネーションなど聞き手を意識して話すことができる。
- 話し手の伝えようとする内容に関心をもち、中心部分を聞き取り、メモすることができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 「書く」「聞く」「話す」それぞれの活動において評価ポイントを事前に示し、ゴールを明確にする。
- グループでお互いに評価やコメントをし合い、自信をもってスピーチ発表ができるようにする。